

令和6年度 第2回 西条市子ども・子育て会議 開催記録

日時	令和7年2月21日（金）19：00～21：00	
場所	西条市役所 本館5階 大会議室	
参加者	<p>【委員：9人】西条市保育協議会会長、私立幼稚園園長、私立保育園園長、私立幼稚園主任教諭、学識経験者、主任児童委員部会長、青少年健全育成協議会会長、医師、母子寡婦福祉連合会会長</p> <p>【市側：10人】こども健康部長、こども健康部副部長兼健康医療推進課長、子育て支援課長、保育・幼稚園課長、健康医療推進課主幹、副課長兼子育て世代包括支援係長、副課長兼認定給付係長、子育て支援係長、専門員兼施設総務係長、専門員兼母子保健係長</p>	
次第	<p>1 部長挨拶</p> <p>2 協議題</p> <p>第2期西条市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p> <p>利用定員の設定に係る意見聴取について</p> <p>第3期西条市子ども・子育て支援事業計画策定に係るパブリックコメント結果について</p>	
【協議題】 第2期西条市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について		
	委員の発言要旨	市の発言要旨
	<p>乳児家庭全戸訪問事業について、産後うつ病質問票は、ネグレクトや親自身の障がいなどで子どもを養育できない状態のところに、保健師などが訪問して実施しているのかなと思っていた。産後うつ病に対応しているとのことだが、産後うつ病の状態となっている母親を見つけ出すということはなかなか困難ではないか。睡眠不足や育児の切迫感、産後の気分の起伏といったことを質問票で把握して、産後うつ病のスクリーニングをしようとしているということか。</p>	<p>産後うつ病質問票については、うつ病だけでなく、気分にもムラのある方を拾い出すことにも活用している。このほか、赤ちゃんへの気持ち質問票を使って子どもに対する愛着を確かめたり、保健師が追加で聴き取りを行ったりするなどして、総合的に親の様子を確認させてもらっている。もしその場でネグレクトの疑いがあったり、親に障がいがあったりした場合でも、妊娠中から把握している場合が多いので、我々も意識をもって訪問しているので、取りこぼすことなく対応できているんじゃないかなと思っている、</p>
	<p>子育て短期支援事業について、第1期・第2期ともに実績0件だが第3期でも掲載する予定なのか。</p> <p>養育訪問支援事業（専門的相談支援）について、計画と実績に乖離がある。通常、計画と実績に乖離があるのであれば、見直して実績に対応できるスタッフを補充する必要があると思うが、第3期もこの体制でいくのか。</p> <p>産前産後・子育て支援ヘルパーについて、第2期の4年目・5年目の登録者数が減少しているが、これはお母さんが産前産後に安定した育児が出来ているからニーズが減少したと捉えていいのか。</p> <p>多様な事業者の参入促進・能力活用事業について、地域における小学校就学前の子どもを対象とした多様な集団活動事業の利用支援とは具体的にどういった事業を想定しているのか。</p>	<p>子育て短期支援事業について、確かに実績はないが、国の計画作成指針により掲載が必要なため、第3期でも掲載を予定している。ただし、市役所がニーズを掘り起こせていない可能性もある。一時的に子どもを預けたい場合、これ以外の制度でも預かり対応はしているが、子育て短期支援事業を有効活用できるよう検討していく。</p> <p>養育訪問支援事業（専門的相談支援）について、包括支援センターが出来たことによって、これまでより丁寧なかかわりができるようになったため回数が増えたと思われる。保健センターの保健師や看護師による訪問や電話連絡など、今いるスタッフで出来る限りといった対応をさせてもらっている。</p> <p>産前産後・子育て支援ヘルパーについて、確かに登録者数が減少しているが、これは人口減少による妊婦数の減少に起因するものと思われる。利用回数・時間で見ると、制度の認知度の高まりとともに少しずつ増加しており、市としても必要性の高い事業だと思っているので、引き続き提供に努めていく。</p> <p>多様な事業者の参入促進・能力活用事業のうち、地域における小学校就学前の子どもを対象とした多様な集団活動事業の利用支援とは、幼児教育・保育の無償化給付を受けていない、この事業要件を満たす施設を利用する満三歳以上の幼児の保護者が支払う利用料についてその一部を給付する事業である。施設の具体例としては、自然体験、生活体験等を通じた集団活動を行う施設であり、横浜市では外国人を主たる対象とした施設が対象となっている。</p>
	<p>子育て短期支援事業について、ニーズはあるが実績はないとのことだが、愛媛県の複数の市町でショートステイ事業への取り組みを始めようとしていると聞いている。ショートステイ事業を誰が支えるかという、里親にしっかりと研修をして、地域の受け皿として対応できる体制を複数の市町が取り組み始めている。松山市の実績を見ても、ショートステイ事業は非常に使いにくい。ファミサポや児相でかなりのものはカバーされると思うが、ショートステイは所得証明を出さなければいけないとか利用者側のハードルがあるのが難しさかなと思っている。西条市は計画に載せた後、どのように事業を実体化していくか。</p>	<p>里親を活用したショートステイという取り組みは承知しており、愛媛県からも制度の有効活用について依頼があった。里親の力を借りて、制度利用を進めてまいりたいと考えている。</p>

【協議題】 利用定員の設定に係る意見聴取について	
委員の発言要旨	市の発言要旨
<p>西条東部は利用者数と定員と見比べて、一番均等になっていると思うが、それは私立しかないから。公立も利用者数に見合った定員を設定したら分かりやすいと思う。統合再編以外で、公立の定員を変更することはないのか。</p> <p>利用者数に見合った定員に変更したほうが、待機児童の存在を把握しやすい。今治市は途中入所を希望する方向に、どこの施設の何歳児が何人空いているという一覧表を毎月更新して渡しているが、西条市はどうか。</p>	<p>公立保育所・認定こども園・幼稚園13施設あるが、確かに利用者数と定員が乖離しているところはあるが、現在のところ定員を変更する予定はないが、今後検討は進めていく。</p> <p>各施設の空き状況については、毎月下旬ごろにホームページに公開している。</p>
<p>定員が減ったから保育士も減らしていいのかというと、今時の親も子どもも多様なニーズを抱えているので難しいと思う。一方で、保育士養成課程の学校に学生が集まりにくくなっている。現場では、保育士が減少しても子どもの数が減少していることによって成り立っているのか、それとも保育士が足りない状態が続いているのか、保育士が足りないのであればどのように解決したら良いと考えているのか。</p>	<p>保育士の確保については、西条市は、UIターン保育士支援事業として県外からの保育士の移住を促進し、一層の確保を図るため、補助金を出す事業を実施している。</p>
<p>現場で保育士は足りていない。西条市保育協議会の活動としては、大学教授からの依頼で、高校生ボランティアによる絵本の読み聞かせの場を設けて、保育に興味を持ってもらう機会を作っている。すると、ボランティアで参加した高校生の中から保育士養成課程の大学を希望する子が数人出てきたと聞いた。ただ、松山市が保育士への家賃補助をし始めてからは、進学後に帰ってこない子が増えた。今は、どうやったら西条市で保育士になってくれる人を確保するかということが課題になっている。</p>	
<p>小松地区について、公立施設は小松幼稚園・小松東保育所・小松西保育所の3施設があるが、どのようなスケジュールで再編していく予定か。</p>	<p>小松地区については、施設再編計画にあるとおり、令和8年4月1日移行をめざして、現在、小松幼稚園と小松西保育所の統合を進めている。今年度は実施設計を進めている段階であり、小松幼稚園に隣接する旧市営住宅の敷地を利用して、仮称・小松認定こども園の整備事業ということで進めている。</p>
<p>103万円の壁を見直すという動きがあるが、これが実現すればたくさん働きたいというお母さんが増えると思う。西条市も保育士を対象とした補助金があるということだが、どこを見たら補助金の内容が分かるのか。</p>	<p>UIターン保育士支援事業は、西条市ホームページに公表している。</p>
【協議題】 第3期西条市子ども・子育て支援事業計画策定に係るパブリックコメント結果について	
委員の発言要旨	市の発言要旨
<p>放課後児童クラブ事業について、本来、働いている保護者のために子どもを安心できる環境の中で養育するという福祉的な目的がある事業だと思っている。なぜ所管が福祉部門から教育部門に変わったのか。また、福祉部門とはどのように連携しているのか。</p> <p>学校の空き教室を活用しているケースがあると思うが、子どもの精神面を考えると、放課後児童クラブは学校の延長線上にあるものではなく、家庭の代わりとして子どもをのびのびと見ていただきたいし、福祉部門もかかわってほしい。</p>	<p>放課後児童クラブ事業について児童福祉の側面が強いと思われるが、児童クラブの運営が学校敷地内で行われていることから、総合的な面で教育委員会が所管したほうがメリットが大きいという判断であったのではないかと認識している。</p>
<p>私のこども園が、市内の民間としては初めて、来年4月から放課後児童クラブを実施する。保護者の立場からすると、小学校敷地内の児童クラブ以外に選択肢があるのはいいと思っている。どこにお金を使うかという問題はありますが、松山市は児童クラブを開設することに対して補助金を出している。私のところの児童クラブがうまくいって、後が続けばいいなと思っている。</p>	<p>-----</p>